

恐竜調査隊

が行く

岡山理科大学 教授 石垣忍



研究はチームプレー

まめ ち しき
豆 知 識

サウロロフス

写真の足跡をつけた

恐竜と考えられます。植物を食べていた恐竜で、二本足で歩きました。この足跡から推定される全長は15メートルにもなります。体重は十数トンのティラノサウルスよりはるかに大きな動物でした。

植物食恐竜サウロロフスの復元画(絵:石垣悠)



恐竜の三本指の「足型」化石に手をのせて自慢げなのはメインバヤルさん。

モンゴル古生物学研究所の研究員で、私と同じく恐

竜足跡化石が専門です。いま、岡山理科大とモンゴルの共同調査隊が発掘した大型恐竜の足跡を私と一緒に共同研究しています。海外



大型鳥脚類の「足型」化石とメインバヤルさん。やわらかい地面の上を恐竜が歩くと足跡の大きなくぼみができます。そこに、砂がたまり、上に地層が積み重なって硬くなった後、地表に現れるとこんな「足型」が残ることがあります。

得意分野で力合わせる

渡航が不可能で、会って話せない今は、メールやテレビ会議で、いろいろ議論をしています。文章を練ったり、図を描いたり、表を作ったり、写真を選んだりというぐあい。

じゃあ論文は2人の共著になる予定ですか？
いえいえ、5人の共著

岡山理科大の實吉玄貴先生には化石が出た地層について、モンゴルのツオクトバートル研究所長には一緒に出てくる化石について書いてもらいます。さらに同じタイプの足跡化石を研究しているアメリカの研究者に、アメリカの化石と比較した結果を書いてもらい、ついでに英語のチェックもしてもらいます。これで5人。さらに、著者にはならないけれど、モンゴルと日本のおおきさんの人が手伝ってくれます。この皆さんには論文の最後に名前を記してお礼を言います。こんな

ふうに、現在の科学の研究は一人でやるものではありません。何人も人がそれぞれ得意技を發揮し力を合わせることで研究が成り立ちます。チームプレーも研究者の大切な力です。

5、6歳の子どもたちから「恐竜の研究者になるには…?」とよく聞かれます。最近の私は「みんなと一緒に遊ぶことが大事だよ」と答えています。